

新しい豊かさ協創4

世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト

【主担当部局：雇用経済部 観光・国際局】

プロジェクトの目標

三重県観光の「予感」（三重へ行ってみよう）・「体感」（三重で旅行を満喫）・「実感」（三重は楽しかった、また行きたい）のサイクルが築かれ、観光産業が本県の経済をけん引する産業の一つとして確立されています。そのため、観光旅行者の多様なニーズに対応するさまざまな観光振興の取組を、県民の皆さん、市町、観光事業者、観光関係団体等と連携して進めます。4年後には、観光の基盤づくりが進み、観光旅行者の満足度が向上し、式年遷宮*後も観光入込客数が持続的に確保されています。

評価結果をふまえたプロジェクトの進展度と判断理由

進展度 *	判断理由

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況 目標値 実績値
観光レクリエーション入込客数	3,565万人	3,650万人 3,787万人	4,000万人 4,080万人	4,000万人	4,000万人

目標項目の説明と平成27年度目標値の考え方

目標項目の説明	1年間に観光レクリエーション等の目的で県内の観光地を訪れた人数について、全国観光統計基準に基づき集計した推計値
27年度目標値の考え方	最終目標値を前倒しし、高い水準での維持を図っていくこととします。

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況 目標値 実績値
1「さまざまな主体との連携による観光PR・誘客」に挑戦します。	延べ宿泊者数	756万人	770万人 833万人	800万人 969万人	800万人	800万人
	リピート意向率	77.8%	82.0% 83.9%	88.0% 84.5%	94.0%	100.0%

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況
2「海外で認知度アップによる来訪者の増加」に挑戦します！	県内の外国人延べ宿泊者数	/	100,000人	120,000人	135,000人	
		90,990人	94,660人	130,890人		/
	海外の自治体等との連携事業数(累計)	/	2件	5件	(達成済)	(達成済)
		—	3件	10件		/
3「来訪を促進する観光の基盤づくり」に挑戦します！	受講生が取り組んだ地域活動数(累計)	/	10件	20件	35件	
		—	13件	29件		/

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
予算額等	52	251	207	

平成 26 年度の取組概要

- ①式年遷宮「おかげ年」の機運を持続させるとともに、平成 26 年の熊野古道世界遺産登録 10 周年等の好機を最大限活用し、引き続き、「みえ旅パスポート」の発給促進 (298, 214 件 8/31 現在)、「みえ旅案内所」(95 施設 9/24 現在)、「みえ旅おもてなし施設」(861 施設 9/24 現在)の充実を図るとともに、市町等からなる県内 5 地域ごとの地域部会による地域連携事業や熊野古道世界遺産登録 10 周年を記念した高速道路の割引企画「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプラン (7 月～11 月) の実施、旅行商品造成の働きかけなど官民一体となった情報発信や誘客を促進
- ②三重テラスの活用や全国規模の観光展である「ツーリズム EXPO 2014」(9 月開催)への出展等首都圏等での情報発信を強化
- ③別宮の遷宮、古事記、歴史街道などテーマやストーリーづくりを重視し、神話や古事記等を通じて共通の話題を有する島根県、奈良県、和歌山県等との連携や県境を越えた連携を強化
- ④「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾、タイ、マレーシア、香港、フランスについて、集中的なセールスや「三重県海外観光特使」の委嘱等により、効果的、重点的にプロモーションを実施。特に、台湾については、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強化し、台湾全域からの誘客を促進
- ⑤県内企業の海外展開、農林水産物の輸出促進等の取組と一体となり三重県の魅力を総合的に PR し、ビジネス客も含めた海外誘客を促進。また、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を進め、中部地域全体で認知度を向上
- ⑥Wi-Fi、案内表示等の外国人観光客の受入環境整備について、みえ旅案内所等への整備を促進
- ⑦本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」について、引き続き、地域の協議会での取り組みを支援することで、地域の連携を促し国内外への発信を強化

- ⑧ロケツーリズム、スポーツツーリズム、エコツーリズム等の地域資源を生かしたニューツーリズムに関する情報を三重県観光キャンペーンや熊野古道世界遺産登録10周年などの「周年事業」等を活用し、関係機関と連携して発信
- ⑨障がい者、高齢者など移動に困難を伴う方に、県内のバリアフリー観光情報を発信するとともに、受け入れ側の情報提供機能や相談機能を高めることで、地域におけるコンシェルジュ機能を充実
- ⑩みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、引き続き、観光客の利便性向上や観光産業の振興につながる実証事業の実施に向けた取組を推進
- ⑪三重県新地震・津波対策行動計画にもとづき、防災対策部と連携して観光防災にかかる人材の育成、課題検討の場づくり、避難訓練を実施

【中間進捗情報】

平成26年度の上半期の成果と残された課題

- ①三重県観光キャンペーンでは、市町や観光事業者、交通事業者、企業等のご協力をいただき「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」のキャッチフレーズを活用して三重県の情報発信を行っています。
「みえ旅パスポート」については、イベント会場やサービスエリア等で臨時発給を行うとともに、プレミアムステージ達成者には、みえ旅案内所88ヵ所以上を巡っていただき、新たなスタンプ帳を発給しています。また、今年度上期でさらに10万部余りの発給を行い、キャンペーン開始以来30万部を超える発給数となりました。「みえ旅案内所」については上期で8施設が増え、95施設となりました。
平成26年度上期オフィシャルガイドブックを30万部、エリア別パンフレットを5地域各5万部計25万部発行しました。
さらに、熊野古道伊勢路の世界遺産登録10周年に併せて、NEXCO中日本と連携して高速道路の割引企画「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを7月から実施しています。
今後とも官民一体となって、キャンペーンを展開していくことが必要です。
- ②ターゲットを絞った情報発信として、「たのしいみえののりもの」、「ごほうびスポット三重」、「映画旅音楽旅みえ」、「お伊勢さんから始まる旅」などテーマを絞ったパンフレットを活用し、ファミリー対象イベント、女性向けイベントなどでPRを行っています。モータースポーツファンに向けF1ドライバーの小林可夢偉選手の記者会見(7/31)を三重テラスで行うことで、F1開催地としての三重県鈴鹿サーキットをアピールしました。また、昨年に引き続き島根県と連携して開催している神話講座を実施しました。今後とも、コアな三重ファンづくりをめざしてターゲットを意識した効果的な情報発信が必要です。
- ③中京圏、関西圏、首都圏等におけるメディアやエージェントへの旬の情報提供を行うとともに、首都圏の女性層をターゲットにしたイベント「OZ女子旅EXPO」や、本年から開催される全国規模の観光展である「ツーリズムEXPO2014」(9月開催)への出展等により、三重の魅力積極的に発信しました。また、名古屋桜通りカフェにおいて「世界遺産登録10周年!熊野古道・伊勢路フェア」(5/26~6/14)、「夏休みは、やっぱ三重でしょ!ステキ体験計画」(7/7~12)を開催するなど、地域食材を活用したメニューを提供し、本県魅力を発信しました。今後も継続的に首都圏等大都市圏での効果的な情報発信を行う必要があります。
- ④インバウンドの取組として、台湾については、継続した現地旅行会社へのセールス実施、台湾大手靴メーカー「Lanew(ラニュー)」による大規模ハイキングツアーが熊野古道松本峠等で催行(8/26~9/7 全11班600名超)され、地元関係者とともに支援しました。シンガポールでは、人気ブロガーを活用した情報発信や同国旅行博覧会において旅行商品のセールスを促進しています。タイやマレーシアについては、本県へのメディアの取材や旅行会社視察が行われ、現地での情報発信の機会も増加しています。さらに知事によるトップセールス(9/9~9/12)や昨年マレーシアに続き、タイにおいても「三重県海外観光特使」

を委嘱するなど、誘客促進を図っています。今後も、重点国・地域を対象にその国の実情に応じた効果的なセールスを展開し、一層の海外誘客促進を進める必要があります。

- ⑤台湾大学院生等を活用し、フェイスブック等による観光情報発信を行うほか、訪日外国人向けフリーペーパーによる本県観光情報の特集記事を掲載しました。今後とも、効果的な情報発信により海外での認知度を高めていく必要があります。
- ⑥外国人が本県を旅行する際の利便性向上のため、外国人向け無料公衆無線LAN (Free WiFi MIE) については、これまで県内73ヵ所での整備を図っており、今後も「みえ旅案内所」を中心に整備を促進していきますが、熊野古道世界遺産登録10周年を迎えた東紀州地域について新たに5ヶ所の整備支援を行いました。また、10月から外国人観光客向け消費税免税対象品目が拡大されることから、免税店の拡大を図るため外国人観光客向け消費税免税説明会(津市、鳥羽市、伊勢市、熊野市)を開催するとともに、マレーシアやインドネシアなどのムスリム(イスラム教信者)への対応として、ハラール研修会を開催しました。引き続き、外国人観光客の受入環境を整えていく必要があります。
- ⑦伊賀流忍者観光推進協議会において、昨年度実施したモニターツアーを踏まえ、「忍者」をテーマにした新たなツアーの商品化を検討しています。また、「海女」については、10月に志摩市で開催予定の「海女サミット in 志摩 2014」の成功と海女文化の理解に向けた情報発信に取り組んでいます。世界に誇る観光資源である「海女」、「忍者」については、引き続き地域と連携しながら国内外に情報発信していく必要があります。
- ⑧5月に全国で公開された映画「WOODJOB! ~神去なあなあ日常~」については、ロケ地マップを作成し上映館に設置するとともに、ロケ地である津市や映画製作会社と連携しながら県内外でPRを行いました。また、本映画は台湾や香港でも上映されました。引き続き、県内各地のフィルムコミッションと連携し、ロケ支援に取り組むとともに、ロケツーリズムによる誘客促進を行っていく必要があります。
- ⑨「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」に基づき、県内観光関係者のバリアフリー観光の機運醸成と障害者や高齢者の潜在需要の掘り起こしを図るとともに、観光施設や観光案内所等でのコンシェルジュ機能を強化するため、NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと連携して、観光施設、周遊コース、車椅子等のレンタル情報等を掲載した総合的なバリアフリー観光ガイドブックの作成を進めていきます。
- ⑩みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、参画事業者が主体的に観光アプリを活用した2つの実証事業に取り組んでいます。
- ⑪安全で安心できる観光地づくりを進めるため、鳥羽市において観光事業者、観光関係団体等を対象に防災セミナーを開催(113名参加)し、観光地の防災についての意識の啓発や知識の習得など、人材の育成に取り組まれました。引き続き、観光地に関する防災上の課題について、市町、観光関係団体等とともに取組を進めていきます。

新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議における主な意見

- ①ポスト遷宮として、インバウンドとバリアフリーは重要である。また、東京オリンピック、リニア開通を視野に誘客戦略や基盤整備を行うべきである。
- ②貸切バスの値上げに伴い、公共交通機関を使ったツアーが増えつつある。観光消費額を増やすためには、二次交通など周遊するための対策や2泊3日のコースづくりが必要である。
- ③観光産業の基盤であるサービス産業は人材難であり、人材の確保が課題である。新卒5年以内の離職率抑制（現状では半数以上が離職）、首都圏からキャリア人材を呼ぶためのPRに取り組んでいる。
- ④神宮では、車椅子参拝者が急増（1日平均68名が利用）し、空きを待つ人もいる。伊勢志摩バリアフリーツアーセンターでは、車椅子の貸出を事業化できないか伊勢市と検討中である。次回の遷宮に向けて整備していきたい。
- ⑤外国人誘客を推進するためには、Wi-Fiの整備はもちろん、両替やクレジットカード、近鉄レールパスなどの使い勝手を良くする必要がある。

平成26年度の後半期（翌年度）に向けた改善のポイントと取組方向

〈後半期〉

- ①平成26年下半期も官民が一体となり情報発信や誘客促進を図っていきます。また、みえ旅パスポートの発給促進を図るため、イベント会場等での臨時発給を行うとともに、効果的に情報発信等を実施します。
- ②今秋からはじまる「しまかぜ」の京都運行を契機に、関西事務所と連携して京都市内で斎宮はじめ三重の魅力情報を発信するとともに、愛知県の博物館明治村と連携した情報発信などを行っていきます。また、今秋の近鉄エリアキャンペーンが、名張市、伊賀市、津市を含む、東大和西三重地域で実施されることから、近鉄、関西事務所と連携を図りながら同地域の情報発信を行っていきます。
- ③インバウンドの取組については、台湾では、台中国際旅行博覧会（TTF）や台北国際旅行博覧会（ITF）への出展、台北・台中・高雄での観光説明会や商談会、観光協定を締結した新北市での平溪国際天灯祭りへの出展、台湾ランタンフェスティバルへの出展など集中的に実施することで関係の強化を図り、更なる誘客を促進します。
- ④東南アジアについては、インドネシアでの旅行会社セールス（9月上旬）やマレーシア旅行博（MATA）への出展（9月及び3月）、タイ国際旅行博覧会（TITF）への出展（2月）、インドネシア旅行博覧会への出展（3月）など集中的にPRを実施します。また、昇龍道プロジェクト推進協議会での広域でのプロモーション活動に参画し、本県への誘客を図ります。
- ⑤外国人向け無料公衆無線LAN（Free WiFi MIE）は今後もみえ旅案内所を中心に整備支援を進めるとともに、消費税免税制度について周知を進め、登録店舗の拡大を図ります。
- ⑥本県が世界に誇る観光資源である「忍者」や「海女」については、「伊賀流忍者のポータルサイトの多言語化（英語、中国語）、公募デザインによる女性用忍者衣装等を活用した情報発信、伊賀牛など地域の資源を活用した観光商品造成に宿泊サイト事業者と連携して取り組むとともに、志摩市で開催する「海女サミット in 志摩 2014」（10月）を活用して海女文化の発信に取り組めます。
- ⑦県内フィルムコミッションと連携し、映画ドラマ等の制作支援を行うとともに、ロケ地めぐりなど本県の新魅力情報を三重県観光キャンペーンにおいて発信していきます。
- ⑧バリアフリー観光のガイドブックの作成に合わせ、観光地におけるバリアフリー観光の課題や対応策等に関するセミナーや地域勉強会を開催するほか、障害者団体や観光関係者と連携することにより、観光事業

者等のバリアフリー観光に関する機運を高め、県内全域への情報発信につなげていきます。

- ⑨みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、事業者の主体的な取組が進展するよう、ワーキンググループの運営に努めます。
- ⑩観光防災については、鳥羽市においては、「帰宅困難者」、紀北町においては、「古里地区の民宿における防災対応」をテーマに、防災対策部や市町等と連携しながら、課題検討の場づくりを進めます。

〈翌年度〉

- ①平成27年度は、三重県観光キャンペーンの2年間の取組成果を踏まえ、集大成の年として、キャンペーン後も見据え事業を展開します。

具体的には、市町、市町観光協会等と連携し、地域部会事業によって得られた地域の魅力を発信するとともに、「みえ旅パスポート」ステージ達成者への誘客促進に取り組むほか、「みえ旅案内所」や「みえ旅おもてなし施設」などおもてなしの「見える化」の仕組づくりや、地域部会による地域資源の磨き上げと発信の仕組の活用等、キャンペーン後も念頭に置きながら取り組むことで、周遊性・滞在性を向上させるとともに、おもてなし向上による三重ファン・リピーターの確保、県民の観光行動の促進を図ります。

- ②三重テラス等を活用しながら首都圏等において、他県と連携した講座の開催や旬の情報など効果的な情報発信を行っていきます。
- ③テーマ性を重視し、女性、シニアの方々等への情報発信を行っていきます。
- ④外国人誘客については、「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾及びタイをはじめとする東南アジアを対象に、集中的なプロモーションを実施します。また、外国人観光客向け口コミサイトへの県内情報の掲載の充実を図ります。なお、国のVJ（ビジットジャパン）事業による他県との連携や中部北陸9県による「昇龍道」の取組への参画により、広域による誘客を進めていきます。
- ⑤フェイスブック等のSNSを活用した情報発信や海外からのメディアファーム及び現地ガイドブック等への観光情報掲載の拡大を図り海外における認知度向上を図っていきます。
- ⑥外国人向け無料公衆無線LANの整備促進については、引き続きみえ旅案内所を中心として支援を行い、利用可能エリアの拡大を図っていきます。
- ⑦「海女」や「忍者」といった世界に誇る観光資源やロケツーリズム、エコツーリズムに関する情報発信を積極的に発信していきます。
- ⑧バリアフリー観光情報を掲載したガイドブックなどを活用し、地域におけるバリアフリー観光のコンシェルジュ機能を強化するとともに、県内全域にバリアフリー観光が浸透するよう取り組みます。
- ⑨みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、平成26年度の実証事業の成果を踏まえ、事業者の主体的な取組が進展するようワーキンググループの運営に努めます。
- ⑩観光地における防災対策については、防災対策部や市町、観光事業者と連携し、引き続き、観光防災に関する課題検討の場づくりや人材育成に取り組みます。